

連載④ 地域密着を進める
女子大学の人づくり
 宮城学院女子大学学長 平川 新

日本の女子大学は1948年の新制大学から始まった。この年に開校したのは、津田塾大学、日本女子大学、東京女子大学、聖心女子大学、神戸女学院大学の5校。戦前は女子専門学校だったが、戦後の民主化のなかで女子大学として初めて認可された。翌49年には、国公立大学84校、私立大学65校が新たに新制

大学として発足した。その後、5校だった女子大学はどうなったか。50年には32校となり、70年には81校、2000年には97校に達している。3倍増だ。とくに60年代から70年代前半にかけての伸びが大きい。1949年に発足した宮城学院女子大学は、学芸学部を開設。英文学科と音楽科から出発した。翌50年には短期大学を置き、家政科と国文科を開いた。これらの4学科は宮城女学校時代から存在しており、戦前に培ってきた女性教育の伝統を戦後の新制大学でも継承し、発展させていくことになった。

55年には短大に保育科、59年には大学に家政学科、64年には大学に日本文学科と短大に教養科を開設した。しばらく後の88年には短大に国際文化科を設置。戦後の社会動向を巧みに反映させながら女性教育の幅を広げ、グローバル化にもいち早く対応してきたといえる。

ところが女子大は、2000年の97校をピークに減少に転じた。14年には22校も減って75校になった。しかし女子大の学生数は、2000年以降に22万人も増えている。

女子大学・短期大学の変遷 (学校数)

	大学数計	私立大	女子大	短期大	うち女子短大
1950	201	105	32	149	140
1960	245	140	35	280	140
1970	382	274	81	479	302
1980	446	319	88	517	312
1990	507	372	88	593	339
2000	649	478	97	572	252
2010	778	597	81	395	122
2014	781	603	75	352	102

文科省「学校基本調査」より作成 (単位:校)

人口減に挑戦する
宮城学院女子大学

女性の進学率は依然として上昇しているにもかかわらず、女子大が減少した。それは戦後の高等女子教育の主流であった文学・教育系や家政系から、社会学・法学・政治学などの社会系に、女性の選好が徐々にシフトしていったからだ。

女子大の多くは、いわゆる良妻賢母型の教養主義的な学部が多かったが、変化してきた女性の選好に対応して社会系の学部を新設し、なおかつ

男性も取り込むために共学化を進めたのである。もう一つ注意しておきたいのは、短期大学の動きだ。短大は大学より2年遅れて1950年に制度化された。やはり60年代に一気に3倍に増大している。短大の半分は男子校または共学だったが、60年代後半以降は女子短大の割合が増えて、「女性は短大」という動きが強まり、女性の高学歴化も進んだ。

しかし、女子短大も90年代

をピークに減少し、2014年度は全盛期の3分の1にまで落ち込んだ。「女性は短大」という意識から、「女性も大学へ」と大きく転換した結果である。

こうした動向のなかで宮城学院は、2000年に短期大学の募集を停止し、食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学

科、国際文化学科を大学に新設した。4年制大学への全面転換である。その後07年には心理行動科学科と児童教育学科を開設して大学の間口をさらに広げた。宮城学院も時代の潮流にあわせながら学科を再編してきたのだ。

16年4月、宮城学院女子大学は、従来の学芸学部1学部から、現代ビジネス学部、教育学部、生活科学部を加えた4学部9学科体制へと大きく変貌する。間もなく直面する18歳人口の減少とあわせ、産業構造の変化や国際関係の多様化など、課題は多い。しかし、女子大学として生き延びていくためには、こうした課題に 대응する新しい教育組織の構築と教育内容の充実が不可欠となっている。今回の改革によって宮城学院は、女性の力をさらにエンパワーメントし、女性が輝く社会の創成に貢献していきたいと考えている。



平川新(ひらかわ・あらた) 昭和25年生まれ。福岡県出身。昭和55年東北大学大学院修士課程修了。東北大学東アジア研究センター長、同災害科学国際研究所長を経て、平成26年4月現職に就任。